

第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

『PRTR大賞2007』 選考結果

主催：(社)環境情報科学センター

後援：経済産業省、環境省、(財)世界自然保護基金ジャパン、(社)日本化学会、(社)化学工学会、(社)環境科学会、(社)大気環境学会、日本環境化学会、(社)日本水環境学会、日本リスク研究学会、(株)化学工業日報社、日経エコロジー、日経BP環境経営フォーラム

PRTR大賞は、化学物質管理とリスクコミュニケーションを積極的に推進している企業や事業所を顕彰するため、環境情報科学センターが平成16年に創設した表彰制度です。4回目の開催となった今年度は、計14件の応募をいただきました。選考委員による第1次審査(書類審査)、第2次審査(ヒアリング・現地調査)、さらに会場審査員と選考委員の投票による大賞選考会を行った結果、PRTR大賞1件、PRTR優秀賞・審査員特別賞2件、PRTR優秀賞3件、PRTR奨励賞3件、PRTR特別賞4件が決定しました。

〔PRTR大賞2007選考委員〕

委員長 安井 至(東京大学名誉教授・国際連合大学名誉副学長)

委員 有田芳子(主婦連合会)、織田島修(化学工業日報社)

亀屋隆志(横浜国立大学大学院)、北野 大(明治大学)、小島正美(毎日新聞社)

神保重紀(日経エコロジー)、中地重晴(環境監視研究所)

福井弘道(慶應義塾大学)、村田幸雄(WWFジャパン)

〔選考結果〕

(五十音順)

|   |  |
|---|--|
| <br>社団法人 環境情報科学センター (1件) | ・日東紡績株式会社 福島第一・第二工場  |
| <br>社団法人 環境情報科学センター (5件) | (優秀賞・審査員特別賞)<br>・九州日本電気株式会社<br>・株式会社東芝 セミコンダクター社 四日市工場<br>(優秀賞)<br>・旭硝子株式会社 鹿島工場<br>・エプソンイメージングデバイス株式会社<br>・富士通株式会社 岩手工場 |
| <br>社団法人 環境情報科学センター (3件) | ・大日本印刷株式会社 鶴瀬事業場<br>・北興化学工業株式会社 新潟工場<br>・松下電器産業株式会社 パナソニックAVCネットワークス社 津山工場   |
| PRTR特別賞 (4件) 事業者部門<br>市民部門<br>自治体部門   | ・新日本プラス株式会社<br>・環境リスク研究会<br>・神奈川県(環境農政部 大気水質課)<br>・埼玉県(環境部 青空再生課)  |

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 日東紡績株式会社 福島第一・第二工場 「PRTR大賞2007」 受賞理由

#### 化学物質管理について

工場長をトップとした化学物質管理委員会を化学物質管理における最高諮問機関と位置づけて、総合的な化学物質管理が実施されていることが確認できました。また、工場長をはじめとした同委員会のメンバーが中心となり、定期的に場内をパトロールして、化学物質管理の観点から職場改善を行うというユニークな取組も見られました。

化学物質の環境への排出削減に積極的に取り組んで中期目標を前倒しで達成し、排出削減が難しいフッ素に関しては、簡易モニタリングの方法を独自に開発して周辺住民宅の庭先などで測定し、周辺環境に影響が無いレベルであることを確認するとともに、測定結果を定期的に地域住民に報告していることが確認できました。

このように、工場内外において化学物質管理体制が整備されていることが高く評価されました。

#### リスクコミュニケーションについて

毎年2回、モニター委員会と称して地域の2町内会とのコミュニケーションを40年にわたって継続していました。フッ素の測定結果やPRTRデータ、事業所の取組を説明するだけでなく、タイムリーな環境情報も含めて“分かりやすい”をモットーに手作りの資料で臨まれていること、懇親会で質問や疑問を吸い上げて次回のモニター委員会で報告していることなど、コミュニケーションを継続するための様々な工夫や取組が高く評価されました。

---

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 九州日本電気株式会社 「PRTR優秀賞・審査員特別賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

社長をトップとした環境管理組織のもと、購入から廃棄までの総合的な化学物質管理体制を整えており、エコ・アクションプランと呼ばれる管理計画に基づき、独自の環境影響評価等を実施し、着実に環境負荷低減活動を実践されていきました。

化学物質の取扱量及び排出量の削減に向けては、工程の見直しに積極的に取り組んでいることが確認されました。また、自社で化学物質のモニタリングから分析までを行い、工程ごとに定期的に排出状況を管理し、特に「ふっ素」の排水管理では、高頻度で濃度を測定する等、品質管理とともに環境負荷の低減に取り組んでいる点が高く評価されました。

#### リスクコミュニケーションについて

自主調査で確認された土壌汚染について、リスクコミュニケーションの重要性を認識し、行政の同席のもと、地域住民への説明会を実施し、積極的に情報を公表したこと、また、近隣保育園ではプールの水に地下水を用いていることから、土壌汚染の影響を考慮し、自主的に保育園の地下水質の測定を実施している点が高く評価されました。

情報公開では、環境報告書において環境負荷低減活動を具体的にわかりやすく記述しているほか、セミナーにおいて化学物質管理の事例発表等、広くコミュニケーションを推進している姿勢がみられました。

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

株式会社東芝 セミコンダクター社 四日市工場 「PRTR優秀賞・審査員特別賞」  
受賞理由

### 化学物質管理について

東芝全社の環境方針の精神を踏襲しつつも、四日市工場の特徴を踏まえた独自性のある環境方針を作成し化学物質管理及び環境保全に取り組んでいました。また、化学物質管理に関する意思決定組織や手順が明確にされ、環境監査についても、現場での実態重視の視点から着実な監査が実施されていました。従業員教育については、新任技術者を含め職員全体に化学物質管理を含めた環境教育が実施されていました。

このように「操業当初の環境の質に近づける」という明確な目標の下に、多方面に渡る取組が高く評価されました。

### リスクコミュニケーションについて

操業当初からの長きにわたり、地域住民との対話が実践されてきたこと、また、住民との対話時に、保有する測定データ等をすべて公開し、住民からの追求を恐れず、積極的に対話を進めている点が高く評価されました。

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 旭硝子株式会社 鹿島工場「PRTR優秀賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

品質・環境・安全衛生・保安防災の4つのマネジメントシステムのもとに化学物質管理システムを運用するといった、特徴的な取組が実践されていました。管理計画に沿って着実にPRTR対象物質の排出量を削減されていることや、具体的な計画のもとでさらなる削減に励んでいることが高く評価されました。

また、コンビナート一帯からの周辺地域への影響については、原因の特定が容易ではないため、コンビナート共同の窓口で受け付けた後、担当事業者に割り振るという形式を採用するなど、立地条件に適った柔軟な対応をされていることが確認できました。

今後は、化学物質管理の方針・計画やより詳細なPRTRデータの公表など、情報公開を推進することが望まれます。

#### リスクコミュニケーションについて

レスポンスブル・ケア活動とともに、工場見学の受け入れや設備新設に伴う住民説明会など、精力的なコミュニケーション活動に取り組まれています。また、工場敷地内での土壌汚染が発覚した際には、ネガティブ情報を公開し、行政の判断を仰ぎながら適切に対応されたことが評価されました。

今後は、具体的なリスクコミュニケーションの計画を作成し、コミュニケーション時には化学物質のリスクに言及した内容を盛り込むことが望まれます。

---

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### エプソンイメージングデバイス株式会社「PRTR優秀賞」受賞理由

#### 化学物質管理について

セイコーエプソングループの環境総合施策に則し、会社独自の環境戦略を策定し、化学物質総合管理規程のもと、総合的な化学物質管理体制を構築していることが確認されました。

削減対象物質は、グループ独自のハザード評価をもとに選定しており、国内の全事業所で「2-アミノエタノール」を全廃する等、積極的に削減に取り組んでいる点が高く評価されました。

また、社内向けの「環境ニュース」をトイレにも掲示することにより、従業員への環境に対する意識向上をはかるといったユニークな取組もみられました。

今後は、周辺地域の環境リスクに関する管理も視野に入れ、さらに充実した化学物質管理が実施されることを期待します。

#### リスクコミュニケーションについて

各事業所で、地域住民（主に地区役員）や近隣小学校との双方向のコミュニケーションを継続的に実施しており、シンポジウムでの講演等、積極的にコミュニケーションを推進している点が評価されました。

今後は、コミュニケーション活動により多くの地域住民の参加を促すよう工夫されることが望まれます。

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 富士通株式会社 岩手工場 「PRTR優秀賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

環境に係る短期、中長期の目標を設定し、化学物質の排出削減を明確に位置づけ、目標を達成するために化学物質管理を確実にやっていく体制が確認されました。中でも、製造工程における省エネルギー、化学物質の使用や廃棄物の削減を目指したグリーン・プロセス活動を推進するために、富士通グループ独自のCG指標（コスト・グリーン指標）を用いて四半期毎に製造工程を見直すことで環境リスクの低減に繋げている点が高く評価されました。

#### リスクコミュニケーションについて

岩手県のモデル事業に積極的に参加し、これまでに3回の「環境報告会」を開催して地域住民とのコミュニケーションを図ってきた点が評価されました。

説明に際しては、参加者に事業所の取組を理解してもらうために、できるだけ分かりやすく表現する努力がなされ、アンケート結果から参加者の評価が概ね良好であったことが確認されました。

今後は、自治体のモデル事業の経験を活かし、岩手工場独自のリスクコミュニケーションが展開されることを期待します。

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 大日本印刷株式会社 鶴瀬事業場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

ISO14001の規定・手順、社内化学物質管理制度などにより化学物質管理に取り組み、トルエンを中心としたVOCの大幅な削減を達成した点、また独自の工夫により作成された従業員教育用の「化学物質シート」の活用など、工夫を凝らした取組を評価しました。

今後は、鶴瀬事業場として環境リスク管理を含めた化学物質管理の方針や削減見通しなどを明確にして、一層の管理・削減に取り組まれることを期待します。

#### リスクコミュニケーションについて

工場見学など地域住民への事業場の紹介をはじめ、環境リスク研究会や埼玉県と協力して県民主導型のリスクコミュニケーションを実施し、事業場の取組を広く知ってもらうことに努めてきたことを評価しました。

しかし、鶴瀬事業場としてPRTRデータが部門別にしか公表されていないことやサイトレポートが整備されていないことなど、リスクコミュニケーションの基礎となる情報提供に課題が残されていました。

今後は、自ら積極的に情報公開と地域コミュニケーションを図り、地域住民との信頼関係を築かれることを期待します。

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 北興化学工業株式会社 新潟工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

近年、排出削減対策として処理設備の整備に尽力され、特に、排水処理に注力されていることが確認できました。

しかしながら、キシレン以外の削減や今後の見通しなどの詳細な対策について確認することができませんでした。

今後は、北興化学工業全社を通じて化学物質管理体制の認識を十分に浸透させるとともに、取り扱い化学物質全体を考慮した、明確な化学物質管理の促進が期待されます。

#### リスクコミュニケーションについて

古くから近隣住民とのコミュニケーションを実施しており、多くの見学者を受入れるなど、地域住民との良好な関係の維持や情報公開に努めていました。また、緑化の推進や清掃活動などの環境整備に努めていることが確認できました。

今後は、レスポンシブル・ケア地域対話のみならず、事業所独自のリスクコミュニケーションを推進されることを期待します。

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

松下電器産業株式会社 パナソニックAVCネットワークス社 津山工場  
「PRTR奨励賞」 受賞理由

### 化学物質管理について

環境宣言の中で「化学物質管理」が明記され、また管理マニュアル、化学物質管理のためのデータベース等が整備され、基礎的な管理が着実に実施されていると判断されました。

今後は、グループ全体の環境方針を踏まえつつ、津山工場の独自性を持った取組を推進することが期待されます。

### リスクコミュニケーションについて

地域社会とのコミュニケーション推進のための方針等の基礎資料等の提示がなかったことから、リスクコミュニケーションに対する取組内容が確認できませんでした。

今後は、地域住民とのコミュニケーションを密にする取組の推進とその内容の公表を推進することが望まれます。

---

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 新日本プラス株式会社「PRTR特別賞(事業者部門)」受賞理由

#### 化学物質管理について

DOWAグループの規定を参考にした独自の環境方針に基づき、着実に化学物質管理の仕組みを運用されていました。熱心な従業員教育や明確なポリシーを持った化学物質の受入体制などが確認できました。また、放流先に配慮した排水管理についても、より削減に努める方向性が確認できました。これらに加えて、省エネルギーや廃棄物対策など幅広く環境問題へ取り組まれていることが高く評価されました。

今後は、PRTR情報をより積極的に開示・配布し、広く地域住民から理解を得る取組が期待されます。

#### リスクコミュニケーションについて

県が推進する中小企業のリスクコミュニケーションのモデル事業に参画し、コミュニケーションの場では、地域の環境リスクを題材に取り上げたことが高く評価されました。

今後の予定として挙げられている地域コミュニケーションの推進などについて、より具体性のある計画が立案されること、また、グループ企業や地域の模範となるべく、より充実したコミュニケーション活動に取り組むことを期待します。

---

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 環境リスク研究会「PRTR特別賞(市民部門)」受賞理由

PRTR法の施行前から、地域の環境リスク削減に取り組む市民団体として活動しており、特に埼玉県の「県民主導型リスクコミュニケーションモデル事業」に率先して取り組むとともに、継続的に勉強会や講座を開催している点が高く評価されました。

モデル事業では、県内のPRTRデータを活用した上で排出量の多い事業所をリスクコミュニケーションの対象として選定していること、また、実施結果を県に報告するほか、フォーラム等のイベントでチラシに記載して配布するなど、情報発信に努めていることも評価されました。

今後は、モデル事業で得た経験を生かし、他の市民や事業者のリスクコミュニケーションの促進に係る活動を期待します。

---

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 神奈川県(環境農政部 大気水質課)「PRTR特別賞(自治体部門)」受賞理由

わが国のPRTR制度確立に向けて国が実施した「PRTRパイロット事業」に当初から参画されていました。また、4年前から他の自治体に先駆けてリスクコミュニケーションのモデル事業に着手され、事業を円滑に実施し、熱心に企業をサポートしてこられました。さらに、化管法の制定に先駆けて独自に「神奈川県化学物質環境安全管理指針」を施行するなど、早くから化学物質のリスクに着目し、地域住民の安全・安心な暮らしを目指した取組をされていることが高く評価されました。

今後は、企業の自発的なリスクコミュニケーションを推進させるためのさらなる先進的な取組を期待します。

---

---

## 第4回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 埼玉県(環境部 青空再生課)「PRTR特別賞(自治体部門)」受賞理由

「県民主導型リスクコミュニケーション事業」を展開し、リスコミサポーター育成研修会やPRTRデータ活用技術研修会など、県民の理解促進に努めてこられました。同時に、PRTR対象物質の排出量が多い事業所に対しても働きかけを行い、リスクコミュニケーションの促進に取り組まれてきました。このように、県民と事業者双方に対して、リスクコミュニケーションの推進と普及啓発に取り組んでいる点が高く評価されました。

今後は地域住民と事業者の、より密接な協働体制の構築に向けた事業が展開されることを期待します。

---